

てんかん診療ネットワーク名簿
(日本てんかん学会・日本医師会調査)

佐賀県	織田行高	精神科	中多久病院	846-0003	佐賀県多久市北多久町多久原2512-24	0952-75-4141	0952-75-4142	cent-jim@koujinkai.net	○		○
佐賀県	石井善智	内科、リウマチ	石井内科	849-4153	佐賀県西松浦郡有田町立部乙2110-1	0955-46-2077	0955-46-2021	marina-i@star.saganet.ne.jp	○		○ ○
佐賀県	松尾宗明	小児科	佐賀大学医学部小児科	849-8501	佐賀県佐賀市鍋島5丁目1-1	0952-34-2314	0952-34-2064	matsuo@cc.saga-u.ac.jp		○	○ ○ ○ ○
長崎県	迫 龍二	神経内科、内	はざま神経内科、内科医院	850-0013	長崎県長崎市中川1-11-28	095-822-4877	095-822-4882	hazamar@green.ocn.ne.jp		○	○ ○
長崎県	築城 檀	精神神経科	築城クリニック	850-0034	長崎県長崎市樺島町3-3	095-823-5787	095-823-0617	tsuikidan@yahoo.co.jp	○	○	○ ○ ○ ○
長崎県	柴山 了	脳神経外科	恵美須町病院	850-0056	長崎県長崎市恵美須町3-4	095-824-9131	095-824-9651	info@ebisu.hp.com	○	○	○ ○
長崎県	中谷 晃	心療内科	医療法人 山の手クリニック	850-0842	長崎県長崎市新地町12-8理研ビル4F	095-832-2255	095-832-2500	yamanote-clinic@space.ocn.ne.jp		○	○ ○ ○
長崎県	田中 司	小児科	(医)大輪会 愛育小児科医院	850-0954	長崎県長崎市新戸町3-17-27	095-879-3812	095-879-3813	tsukasaaiku@nifty.com	○		○ ○
長崎県	岩永 洋	神経内科	長崎市立市民病院	850-8555	長崎県長崎市新地町6-39	095-822-3251	095-826-8798			○	○
長崎県	緒方 幸子	精神科	日見中央病院	851-0126	長崎県長崎市芒塚町22-3	095-838-2760	095-839-3589			○	○
長崎県	神村直久	小児科	かみむら小児科	851-2212	長崎県長崎市畝刈町1613-85	095-860-1177	095-860-1080	nkami@bronze.ocn.ne.jp	○	○	○ ○ ○
長崎県	岩永圭介	神経内科	医療法人 田村内科神経内科 油木坂クリニック	852-8035	長崎県長崎市油木町8-48	095-845-5314	095-848-4255	iwanagak@rik.big.jp	○	○	○
長崎県	松尾光弘	小児科	こども医療福祉センター	854-0071	長崎県諫早市永昌東町24-3	0957-22-1300	0957-23-2614	04635@pret.nagasaki.lg.jp			○ ○ ○ ○
長崎県	田中茂樹	小児科	独)国立病院機構 長崎医療センター小児科	856-0835	長崎県大村市久原2-1001-1	0957-52-3121	0957-54-0292	stanaka@nmc.hosp.go.jp			○ ○ ○ ○
長崎県	柏木ひみこ	精神科、心療	かしわざい心療内科クリニック	857-0028	長崎県佐世保市八幡町4-3八幡ビル2F	0956-23-6121	0956-23-6121		○		○ ○
長崎県	大坪 健	内科	おおつぼ内科クリニック	857-0044	長崎県佐世保市相生町2-5	0956-25-0888	0956-25-0882		○		○
長崎県	延原幸嗣	神経内科	久保内科病院	857-0136	長崎県佐世保市田原町11-9	0956-49-3377	0956-49-3749			○	○
長崎県	石坂博昭	脳神経外科	石坂脳神経外科	857-1162	長崎県佐世保市卸本町30-42	0956-34-0606	0956-34-0644	hiroa810@jasmine.ocn.ne.jp			○ ○
長崎県	犬塚 幹	小児科	佐世保中央病院 小児科	857-1195	長崎県佐世保市大和町15番地	0956-33-7151	0956-33-8557	minutsuka@hotmail.com		○	○ ○ ○
長崎県	福田安雄	神経内科	佐世保市立総合病院	857-8511	長崎県佐世保市平瀬町9-3	0956-24-1515	0956-23-9019	y-fukuda@hospital.sasebo.nagasaki.jp			○ ○ ○
長崎県	藤本武士	神経内科	佐世保市立総合病院	857-8511	長崎県佐世保市平瀬町9-3	0956-24-1515	0956-23-9019	y-fukuda@hospital.sasebo.nagasaki.jp			○ ○ ○
長崎県	浦崎永一郎	神経内科	長崎川棚医療センター西九州 脳神経センター	859-3615	長崎県東彼杵郡川棚町下組郷2005番地1	0956-82-3121	0956-83-3710	urasaki@nkmc1.jp		○	○
長崎県	烏山 昇	精神科	医)敬仁会 松浦病院	859-6408	長崎県佐世保市世知原町栗迎9番地1	0956-76-2201	0956-76-2232	noboru-karasuyama@k4.dion.ne.jp		○	○ ○ ○
熊本県	小篠史郎	小児科	熊本大学医学部附属病院発達 小児科	860-0811	熊本県熊本市本荘1-1-1		096-373-5200	ozasas@kumamoto-u.ac.jp		○	○ ○ ○
熊本県	高本憲治	脳神経外科、	高本脳神経外科小児科医院	861-2233	熊本県上益城郡益城町惣領1316	096-289-0088	096-289-0007		○		○ ○ ○
熊本県	稲富雄一郎	神経内科	済生会熊本病院 脳卒中センター 神経内科	861-4193	熊本県熊本市近見5-3-1	096-351-8000	096-326-3045	y.inatomi@silk.ocn.ne.jp		○	○ ○
熊本県	久野 武	小児科	さくら小児科	862-0963	熊本県熊本市出仲間9丁目7番30号	096-379-6573	096-379-6573		○	○	○ ○ ○

てんかん診療ネットワーク名簿
(日本てんかん学会・日本医師会調査)

2012.3.20.現在(名簿掲載可のみ)

熊本県	多久肇一	発達小児科	天草慈恵病院	863-2502	熊本県天草郡苓北町上津深江278-10	0969-37-1111	0969-37-1536	ktakub@plum.ocn.ne.jp	○	○	○	○	○
熊本県	不破 功	脳外科	荒尾市民病院	864-0041	熊本県荒尾市荒尾2600	0968-63-1115	0968-63-1147	ifuwa@nifty.com	○			○	○
熊本県	井手正美	神経内科	玉名地域保健医療センター	865-0005	熊本県玉名市玉名2172	0968-72-5111	0968-73-4919	idemasa2003@yahoo.co.jp	○				○
熊本県	本岡大道	精神科	城ヶ崎病院	865-0041	熊本県玉名市伊倉北方265	0968-73-3375	0968-73-3379	hiromichi.motooka@gmail.com	○				○
熊本県	米峰かず子	小児科	公立玉名中央病院	865-0064	熊本県玉名市中1950	0968-73-5000	0968-73-2867	yonamine@tamana-chp.jp	○			○	○
熊本県	沼田陽市	精神科	八代病院	866-0024	熊本県八代市郡築一番町179	0965-37-0317	0965-37-1785	numata@yatsushiro-hp.jp		○			○
熊本県	山角公明	精神科	医療法人 カジオ会 八代病院	866-0024	熊本県八代市郡築一番町	0965-37-0317	0965-37-1785	kajiokai@yatusiro-hp.jp		○			○
熊本県	坂本興美	内科、精神科	上天草総合病院	866-0202	熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸1419-19	0969-62-1122	0969-62-1546	kamiama@cityhosp-kamiamakusa.jp		○			○
熊本県	脇山秀樹	精神科	平成病院	866-0895	熊本県八千代市大村町720-1	0965-32-8171	0965-32-8172			○		○	○
熊本県	池田晃章	神経内科、内	山田クリニック	867-0044	熊本県水俣市旭町2-2-5	0966-63-5188	0966-63-5288	ymdc@iris.ocn.ne.jp		○	○		○
熊本県	佐藤 宏	神経内科、内	佐藤クリニック	867-0045	熊本県水俣市桜井町1-2-8	0966-69-3007	0966-69-3008	satou@smew.ocn.ne.jp		○			○
熊本県	木通めぐみ	小児科	有明成仁病院	869-0101	熊本県玉名郡長洲町宮野2775	0968-78-1133	0968-78-5971			○			○
大分県	郭 忠之	脳神経外科	大分赤十字病院	870-0033	大分県大分市千代町3-2-37	097-532-6181	097-533-1207	nougeka2@oita-rc-hp.jp		○			○
大分県	吉留宏明	神経内科	永松神経内科・内科クリニック	870-0818	大分県大分市新春日町1-1-29 マ・メゾン春日2F	097-540-7171	097-546-3727	sp3n7vt9@fork.ocn.ne.jp		○			○
大分県	釘宮誠司	精神科	医)謙誠会 博愛病院	870-0868	大分県大分市大字野田1111番地	097-586-0888	097-586-0889	soumu@hakuai.org			○		○
大分県	福島直喜	小児科	大分市医師会立アルメイダ病院	870-1195	大分県大分市大字宮崎1315	097-569-3121	097-569-9746	pedfk@almeida.oita.med.or.jp			○		○
大分県	三股 力	脳神経外科	新別府病院	874-0833	大分県別府市大字鶴見3898	0977-22-0391	0977-26-4170	c.mimata@shinbeppu-hosp.jp			○		○
大分県	後藤一也	小児科	国立病院機構 西別府病院	874-0840	大分県別府市大字鶴見4548番地	0977-24-1221	0977-26-1163	gotok@nishibeppu-hp.hosp.go.jp			○		○
大分県	児玉晋一	脳神経外科	こだま脳神経外科	874-0919	大分県別府市石垣東8-2-35	0977-22-0272	0977-22-0270	neuro_kodama@vesta.ocn.ne.jp			○		○
大分県	山本隆正	精神科、心療	山本病院	874-0930	大分県別府市光町14-3	0977-22-0131	0977-26-4156	jimu-yhp@xpost.plala.or.jp		○	○	○	○
大分県	三宮邦裕	神経内科	医療法人 長門莫記念会 長門記念病院	876-0835	大分県佐伯市鶴岡町1-11-59	0972-24-3000	0972-23-6640	sanhiro@nagato.or.jp			○		○
大分県	武田 裕	脳神経外科	健康保険南海病院	876-0857	大分県佐伯市常磐西町11-20	0972-22-0547	0972-23-4083	y-takeda@nankai-hp.jp			○		○
大分県	西浦研志	精神科	(医)宗仁会 奥村日田病院	877-0023	大分県日田市田島町500番地	0973-22-6166	0973-22-2480	okamura@hita-soujin.jp			○		○
大分県	森山 匠	脳神経外科	大分県済生会 日田病院	877-1292	大分県日田市大字三和643-7	0973-24-1100	0973-22-1269	neurocap@saiseikai.hita.oita.jp		○			○
大分県	中原成浩	脳神経外科	特定医療法人明徳会佐藤第一病院	879-0454	大分県宇佐市下字法鏡寺77-1	0978-32-2110	0978-33-4918	meitokukai-nnm@sato-d1.com		○	○	○	○
大分県	千嶋達夫	精神科	千嶋病院	879-0608	大分県豊後高田市呉崎738-1	0978-22-3185	0978-22-4560	chishimahp@d-b.ne.jp			○		○
大分県	岡成和夫	小児科	大分県済生会日田病院	879-1292	大分県日田市大字三和643-7	097-586-5833	0973-22-1269	o-kazu@med.oita-u.ac.jp		○			○
大分県	酒井晃治	脳神経外科	サンライズ酒井病院	879-1506	大分県速見郡日出町3156-1	0977-72-2266	0977-72-0328	heisei-k@ctb.ne.jp			○		○
大分県	泉 達郎	小児科、神経	大分大学医学部小児科学講座	879-5593	大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1	097-586-5830	097-586-5839	izumit@oita-u.ac.jp			○		○
大分県	上田 徹	脳外科	大分大学医学部脳神経外科	879-5593	大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目	097-586-5862	097-586-5869	kamida@med.oita-u.ac.jp			○		○

てんかん診療ネットワーク名簿
(日本てんかん学会・日本医師会調査)

2012.3.20 現在(名簿掲載可のみ)

大分県	河村忠雄	脳外科	天心堂へつぎ病院 脳神経外科	879-7761	大分県大分市中戸次二本木	5956	097-597-5777	097-597-5832	—	○		○
宮崎県	植田勇人	精神科	西部病院	880-0852	宮崎県宮崎市高洲町189-3		0985-38-5497	0985-38-5497	uedayuto@gmail.com		○	○
宮崎県	鶴田和仁	神経内科	潤和会記念病院	880-2112	宮崎県宮崎市大字小松1119		0985-47-5555	0985-47-5586	kazuhiro_tsuruta@junwakai.com		○	○ ○ ○ ○
宮崎県	興梠知子	小児科	高千穂町国民健康保険病院	882-1101	宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井435-1		0982-73-1700	0982-73-1710	takabyojim@cronos.ocn.ne.jp		○	○ ○ ○ ○
宮崎県	高山修二	小児科	たかやま小児科	884-0002	宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋4732-8		0983-23-4423	0983-23-4424	fwhj5160@mb.infoweb.ne.jp	○		○ ○ ○ ○ ○
宮崎県	鶴 紀子	精神科	宮崎大学名誉教授 & 高宮病院	884-0841	宮崎県宮崎市吉村町大町甲1931		0985-24-5678	0985-22-1571	tsurun1@gmail.com		○	○ ○ ○ ○
宮崎県	門田紘輝	脳神経外科	ベテスダクリニック	885-0017	宮崎県都城市年見町23-12		0986-22-1700	0986-22-1693	koki-k@po4.synapse.ne.jp		○	○ ○ ○ ○
宮崎県	大坪俊昭	脳外科	藤元早鈴病院脳神経外科	885-0055	宮崎県都城市早鈴町17-1		0986-25-1313	0986-25-3950	toshiaki@email.ne.jp		○	○ ○ ○ ○ ○ ○
宮崎県	大田 元	脳神経外科	都城市郡医師会病院	885-0062	宮崎県都城市大岩田町5822-3		0986-39-2322	0986-39-1108	haohta@fc.miyazaki-u.ac.jp	○		○
宮崎県	池田俊郎	小児科	宮崎大学小児科	889-1692	宮崎県宮崎市清武町木原5200		0985-85-9263	0985-85-9266	tikeda@wk9.so-net.ne.jp、 tikeda@fc.miyazaki-u.ac.jp		○	○ ○ ○ ○ ○
鹿児島県	内村公一	脳神経外科	うちむら脳神経外科クリニック	890-0005	鹿児島県鹿児島市下伊敷1-43-2種子田ビル1F		099-218-2180	099-218-2272	uchimura-nsc@po5.synapse.ne.jp		○	○ ○ ○
鹿児島県	大坪修介	小児科	大坪こどもクリニック	890-0034	鹿児島県鹿児島市市田上2-15-11		099-286-6121	099-286-6127	shusuke@orange.ocn.ne.jp		○	○ ○ ○
鹿児島県	今村真一	脳外科	医)雄翔会 いまむら脳神経クリニック	890-0042	鹿児島県鹿児島市薬師二丁目13-32		099-251-9111	099-299-2542	imamura-1s@po3.synapse.ne.jp		○	○ ○ ○ ○ ○
鹿児島県	粟 博志	脳外科	豊島病院	890-0056	鹿児島県鹿児島市下荒田3-27-1		099-253-0317	099-252-3993	toyo-hosp@po.minc.ne.jp		○	○
鹿児島県	早川 仁	内科、神経内	まごころ内科クリニック	890-0073	鹿児島県鹿児島市宇宿3-1-1カワイ脇田第一ビル3階		099-298-5531	099-298-5532	magokoronaika@magokoronaika.com		○ ○	○
鹿児島県	有田和徳	脳外科	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻神経病学脳神経外科学	890-8544	鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号		099-275-5375	099-265-4041	karita@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
鹿児島県	米沢倫彦	精神科	谷山病院	891-0111	鹿児島県鹿児島市小原町8-1		099-269-4111	269-4169			○	○
鹿児島県	川添一正	脳神経外科	鹿児島赤十字病院	891-0133	鹿児島県鹿児島市平川町2545		099-261-2111	099-261-0491			○	○ ○ ○ ○ ○ ○
鹿児島県	浜田巳則	内科	浜田医院	891-0203	鹿児島県鹿児島市喜入町6988-1		099-345-0077	099-345-1225	hamayuu.hp@gmail.com		○	
鹿児島県	田中達也	脳外科	やまびこ医療福祉センター	891-1206	鹿児島県鹿児島市皆与志町1779		099-238-2755	099-238-5134			○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
鹿児島県	福山茂雄	内科	医療法人 慈心会 福山医院	891-9112	鹿児島県大島郡和泊町和泊96-5		0997-92-0033	0997-92-0033	fukuyama@minc.ne.jp		○	○ ○
鹿児島県	上園敦子	内科	医療法人 慈心会 福山医院	891-9112	鹿児島県大島郡和泊町和泊96-5		0997-92-0033	0997-92-0033	fukuyama@minc.ne.jp		○	○ ○
鹿児島県	朝戸末男	外科、消化器	(医) 朝戸医院	891-9112	鹿児島県大島郡和泊14番地		0997-92-1131	0997-81-4005	sasato@nisiq.net		○	○ ○ ○ ○
鹿児島県	大蔵英世	内科	大蔵医院	891-9214	鹿児島県大島郡知名町知名16-2		0997-93-5033	0997-93-5036			○	○ ○
鹿児島県	古川誠二	内科、小児科	パナウル診療所	891-9308	鹿児島県大島郡与論町那間2747-1		0997-97-2073	0997-97-5164	simba@doctor.email.ne.jp		○	○ ○
鹿児島県	松岡英二	神経内科	松岡医院	892-0802	鹿児島県鹿児島市清水町15-27		099-247-4013	099-247-6929			○	○ ○ ○ ○
鹿児島県	竹ノ下満	外科、内科	医療法人 さんクリニック竹ノ下	892-0833	鹿児島県鹿児島市松原町14-1		099-219-2711	099-219-2717			○	○ ○
鹿児島県	中村尚人	内科、神経内	岩尾病院	892-0837	鹿児島県鹿児島市甲突町17-18		099-225-3838	099-225-3372	pxd04076@po.synapse.ne.jp		○	○

てんかん診療ネットワーク名簿
(日本てんかん学会・日本医師会調査)

2012.3.20.現在(名簿掲載可のみ)

鹿児島県	田中滋也	脳外科	田中脳神経外科クリニック	892-0844	鹿児島県鹿児島市山之口町1-30第10川北ビル3F	099-216-9100	099-216-9101	shigeaya@pastel.ocn.ne.jp	○	○ ○ ○ ○
鹿児島県	山田康一郎	精神科	やまだメンタルクリニック	892-0846	鹿児島県鹿児島市加治屋町13-3-3F	099-227-7766	099-227-7767		○	○ ○ ○ ○
鹿児島県	西澤輝彦	脳神経外科	公益財団法人昭和会 今給黎総合病院、昭和会クリニック	892-8502	鹿児島県鹿児島市下竜尾町4-16	099-226-2211	099-225-6209	nishiteru@po2.synapse.ne.jp	○	○ ○ ○ ○ ○
鹿児島県	梅原藤雄	神経内科	南風病院	892-8512	鹿児島県鹿児島市長田町14-3	099-226-9111	099-223-1573	tmumehara@gmail.com	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
鹿児島県	上津原甲一	脳外科	鹿児島市立病院脳神経外科	892-8580	鹿児島県鹿児島市加治屋町20-17	099-224-2101	099-226-1566	uetuhara@ml.kch.kagoshima.kagoshima.jp	○	○ ○ ○
鹿児島県	白石匡史	神経内科	青仁会 池田病院	893-0024	鹿児島県鹿屋市下祓川町1830	0994-43-3434	0994-40-1117	only@ikedai-hp.com	○ ○	○
鹿児島県	楯林義寛	精神科	桜ヶ丘病院	893-0064	鹿屋市西原4-15-5	0994-44-8686	0994-44-8507	ytate@po3.synapse.jp	○	○
鹿児島県	向井奉文	内科、小児科	医療法人 奎英会 むかいクリニック	894-0006	鹿児島県奄美市名瀬小浜町24-10	0997-55-1777	0997-55-1780	mukaclinic@axel.ocn.ne.jp	○	○ ○
鹿児島県	徳田英弘	神経内科	ファミリークリニックネリヤ	894-0007	鹿児島県奄美市名瀬和光町31-14	0997-57-7177	0997-57-7178	info@neriya.jp	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
鹿児島県	佐藤紘二	精神科	公益財団法人慈愛会奄美病院	894-0044	鹿児島県奄美市名瀬浜里町170番地	0997-53-1200	0997-53-1388	satokoji@sepia.ocn.ne.jp	○	○ ○
鹿児島県	野崎義弘	内科、小児科	奄美市住用国民健康保険診療所	894-1202	鹿児島県奄美市住用町西仲間72-9	0997-69-2620	0997-69-2307	amami1@nozaki-y.com	○	○ ○ ○ ○ ○
鹿児島県	竹中義晴	内科、小児科	大和村立診療所	894-3106	鹿児島県大島郡大和村大圃420	0997-57-2053	0997-57-2500	takenaka@key.ocn.ne.jp	○	○ ○ ○
鹿児島県	中園伸一	小児科	枕崎こどもクリニック	898-0001	鹿児島県枕崎市松之尾町15	0993-58-1085	0993-73-2231	maz@po.synapse.ne.jp	○	○ ○ ○ ○
鹿児島県	小原壮一	脳神経外科	小原病院	898-0003	鹿児島県枕崎市折口町109	0993-72-2226	0993-72-2225		○	○ ○ ○ ○
鹿児島県	塚里孝和	神経内科	つかさとクリニック	899-0182	鹿児島県出水市下知識町1518	0996-67-5560	0996-67-3450	tukasato@ocn.ne.jp	○	○ ○
鹿児島県	酒井 勲	小児科	国分生協病院小児科	899-4332	鹿児島県霧島市国分中央3-22-18	0995-45-4806	0995-45-4938	kokubuseikyohp@po.mct.ne.jp	○	○ ○ ○
鹿児島県	佐野のぞみ	小児科、小児科(独)	国立病院機構 南九州病院	899-5293	鹿児島県始良郡加治木町木田1882	0955-62-2121	0955-63-1807	nozami_sano@tea.ocn.ne.jp	○	○ ○ ○
沖縄県	平良直樹	精神科	医)天仁会 天久台病院	900-0005	沖縄県那覇市字天久1123	098-868-2101	098-868-2680	amekudai@hotmail.com	○	○ ○ ○ ○
沖縄県	譜久原朝和	精神科	医)陽和会南山病院	901-0313	沖縄県糸満市字賀数406-1	098-994-3660	098-994-2598	info@nanzan.or.jp	○	○
沖縄県	山里将進	内科	かじまやクリニック	901-2102	沖縄県浦添市前田997	098-871-0818	098-871-0820	yamazato-9@okicolo.or.jp	○	○
沖縄県	稲福徹也	内科、神経内	稲福内科医院	901-2111	沖縄県浦添市字経塚633メディカルKプラザ1階	098-988-4556	098-988-4557	inahuku-naika1@ion.ocn.ne.jp	○	○
沖縄県	原國 毅	脳神経外科	社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院	901-2132	沖縄県浦添市伊祖4-16-1	098-878-0231	098-877-2518	tharakuni@jin-aikai.or.jp	○	○
沖縄県	佐村博史	脳神経外科	さむら脳神経クリニック	901-2226	沖縄県宜野湾市嘉数2-2-1	098-897-1177	098-897-1123	ginowan-brain@samura-clinic.com	○	○
沖縄県	金城光也	内科	光クリニック	901-2226	沖縄県宜野湾市嘉数2-2-1	098-898-2233	098-898-2287	mkj@hikari-naika.com	○	○
沖縄県	平安京美	小児科	沖縄整肢療護園	902-0064	沖縄県那覇市寄宮2-3-1	098-832-3283	098-835-1291	wa-kh-ikyoku@nirai.ne.jp	○	○ ○ ○
沖縄県	大見 剛	小児科	沖縄整肢療護園	902-0064	沖縄県那覇市寄宮2-3-1	098-832-3283	098-835-1291	swispo@kcd.biglobe.ne.jp	○	○ ○ ○
沖縄県	大仲良一	脳外科	医)寿仁会 沖縄セントラル病院	902-0076	沖縄県那覇市与儀1丁目26番6号	098-854-5511	098-854-5519	o-centh1@nirai.ne.jp	○	○ ○ ○ ○
沖縄県	嘉手川淳	神経内科	沖縄赤十字病院	902-8588	沖縄県那覇市与儀1-3-1	098-853-3134	098-853-7811	junkade-orch@public.email.ne.jp	○	○

II. 分担研究報告

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

分担研究年度終了報告書

患者調査では把握できないてんかん患者数に関する研究

分担研究者 立森久照 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
精神保健計画研究部 統計解析研究室長

研究要旨

【目的】購入したレセプト情報を分析することにより、加入者の性・年齢別のてんかんによる受療者数および受療率などを明らかにする。またそれに基づいて全国のてんかんによる受療者数を推計する。【方法】株式会社日本医療データセンター社の保有する100万人規模の診療行為情報のデータベースから抽出された、2011年3月～8月の期間中の受療者のうち傷病名称にてんかん関連傷病名を含む者、または抗てんかん薬を処方された者を対象とする。併記傷病名、計上された専門療法、同時に処方された薬剤などの情報を基に、保険傷病名の見直しをおこない、集計用の傷病名コードを作成する。この集計用の傷病名コードに基づいて、外来のてんかん（中核群）＋入院のてんかん（周辺群を含む）および外来（周辺群を含む）＋入院のてんかん（周辺群を含む）について加入者の性・年齢別のてんかんによる受療者数および受療率などの集計を行う。またそれに基づいて全国のてんかんによる受療者数を推計する。【結果】本研究は、厚生労働省への「レセプト情報等の提供に関する申出」を行い、採択された課題に対して提供される診療行為情報のデータを分析することにより、実行する計画であった。しかし不採択となったため、診療行為情報データの入手方法を株式会社日本医療データセンター社からのデータ購入に変更して実施することに計画を変更した。同社との契約が完了し、データを入手できることは確定したものの、報告書執筆時点では分析が完了しておらず、ここに結果を示すことができない。データの入手先が変更となったことにより倫理審査が再審査となったため、倫理審査委員会の承認を得られ次第、既に準備を行った解析方法に従って分析を行う。【結論】購入したレセプト情報を分析することにより、加入者の性・年齢別のてんかんによる受療者数および受療率などを明らかにし、それに基づいて全国のてんかんによる受療者数の推計を進める予定である。

A. 研究目的

てんかんは、乳幼児・小児から成人・老年に至る年齢層に及ぶ患者数の多い神経疾患であるが、発達障害や精神障害への対応や時に外科治療を要するなど、その診療には診療科の枠を超えた人的・物的医療資源の活用が必要とされる。しかし我が国のてんかん診療は、歴史的に中核となる診療科が不明確な事もあり、必ずしも診療体制の整備は十分ではなく、てんかんの患者数や地域にお

ける診療実態が正確に把握されていないのが現状である。わが国のてんかん患者の受療者数は、平成20年患者調査では22万人（総人口の0.18%）とされ、てんかん医療に関する施策立案の根拠となっているが、疫学的には先進国のてんかんの有病率は人口の0.5%～1.0%(Olafsson 1999)とされその乖離は大きい。我が国のてんかんの有病率が先進諸国より低い可能性は過去に行われた小児の有病率調査（Oka 2006）をみても考えにくく、この

乖離の理由は、わが国では1. てんかん患者が医療機関に受診していない、あるいは2. 受療しているがてんかんとして把握されていない、のいずれかによる可能性がある。また最近の人口高齢化に従い高齢者のてんかん発症が増加していると推定されるが、わが国での実態は未だ不明である。

本研究の目的は、本邦の患者調査で把握されていないてんかんの患者数とその診療実態を調査し、我が国で必要なたんかん医療のニーズの全貌を明らかにし、既存の医療資源の活用を含め、今後のてんかん医療の供給体制の道筋を示すことにある。

今年度研究では、購入したレセプト情報を分析することにより、加入者の性・年齢別のてんかんによる受療者数および受療率などを明らかにする。またそれに基づいて全国のてんかんによる受療者数を推計する。

B. 研究方法

1. 対象

株式会社日本医療データセンター社の保有する100万人規模の診療行為情報のデータベースから抽出された受療者のうち、2011年3月～8月の期間中に、傷病名称にてんかん関連傷病名を含む者、または抗てんかん薬を処方された者を対象とする。

2. 方法

併記傷病名、計上された専門療法、同時に処方された薬剤などの情報を基に、保険傷病名の見直しをおこない、集計用の傷病名コードを作成する(図1参照)。この集計用の傷病名コードに基づいて、外来のてんかん(中核群)+入院のてんかん(周辺群を含む)および外来(周辺群を含む)+入院のてんかん(周辺群を含む)について次ページに示した様式の集計を行う。なお疑い例についてはそれを含んだ場合と含まない場合の集計を行う。つまり周辺群を含むか否か×疑い例を含むか否かの4つの傷病名別の集計がなされる(表1)

(倫理面への配慮)

本研究は独立行政法人国立精神・神経医療研究センター倫理審査委員会の承認を得て実施する。

当初予定をしていた厚生労働省への「レセプト情報等の提供に関する申出」が採択され提供を受けるデータを用いるものについては2011年10月28日付けで同委員会の承認を得た(承認番号A2011-069)。データ提供が採択をされなかったことを受けて、データの入手先を変更したものについては、同委員会に計画の変更を申し出、現在再審査中である。

C. 研究結果, D. 考察

本研究は、厚生労働省への「レセプト情報等の提供に関する申出」を行い、採択された課題に対して提供される診療行為情報のデータを分析することにより、実行する計画であった。レセプト情報等の提供に関する有識者会議のおける審査の結果、不採択とされたため、当初の計画に従い研究を進めることが不可能となった。

そこで、診療行為情報データの入手方法を株式会社日本医療データセンター社からのデータ購入に変更して実施することに計画を変更した。同社との契約が完了し、データを入手できることは確定したものの、報告書執筆時点では分析が完了しておらず、ここに結果を示すことができない。

倫理審査委員会の承認を得られ次第、既に準備を行った解析方法に従って分析を行う。

E. 結論

購入したレセプト情報を分析することにより、加入者の性・年齢別のてんかんによる受療者数および受療率などを明らかにし、それに基づいて全国のてんかんによる受療者数の推計を進める予定である。

F. 研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表 1：てんかんによる受療率についての結果の表

表側	表頭			
	受療者数		受療率	
	男性	女性	男性	女性
< 傷病名 > 年齢階級別	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
	< 以下同様の形式 >			

< 調査項目の集計区分 >

受療者数：期間内に該当するレセプトが提出された実人数

受療率：期間内に該当するレセプトが提出された実人数を、その期間の加入者の実人数で除したもの

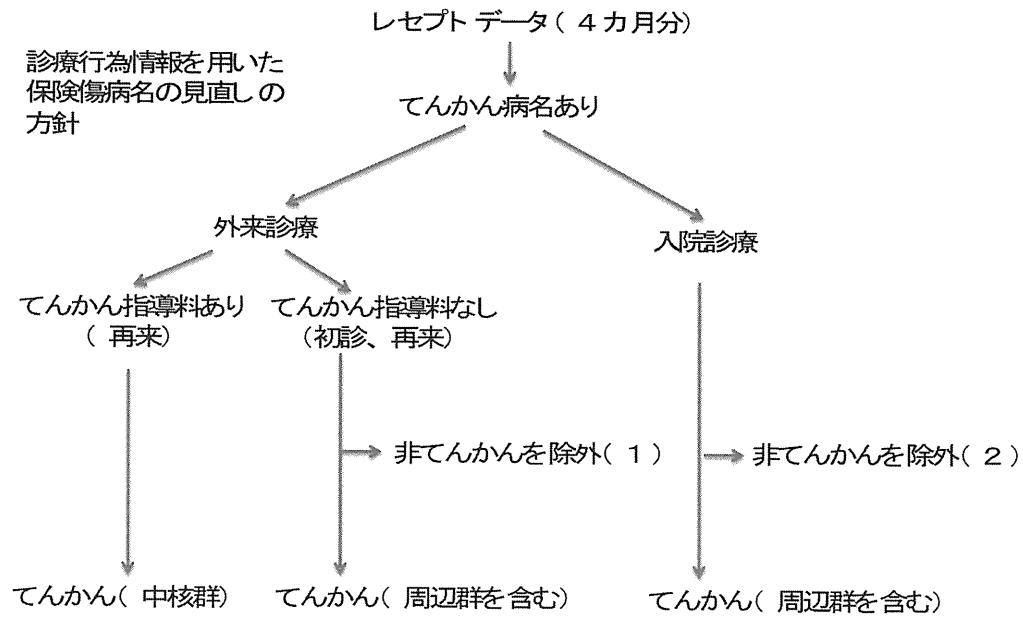
性：男性，女性

年齢階級：0～4 歳， 5～9 歳， 10～14 歳， 15～19 歳， 20～24 歳， 25～29 歳， 30～34 歳， 35～39 歳， 40～44 歳， 45～49 歳， 50～54 歳， 55～59 歳， 60～64 歳， 65～69 歳， 70～74 歳， (75～79 歳， 80～84 歳， 85 歳以上，) 不詳

傷病名：別添 3 に示した外来のてんかん（中核群）＋入院のてんかん（周辺群を含む）

および外来（周辺群を含む）＋入院のてんかん（周辺群を含む）別

図 1：保険傷病名の見直し



非てんかんの除外法(1)

下記の疾患名(関連疾患名を含む)が併記されている例を抽出し
それぞれの群で下記の条件にあてはまる例を除外する

併記疾患名	外来(てんかん指導料あり)を除外	入院
気分障害	通院・在宅精神療法、心身医学療法が計上されている例を除く	入院精神療法が算定されており、かつバルプロ酸、あるいはカルバマゼピン、あるいはクロナゼパムの単剤使用例を除く
不眠症	精神科専門療法料(通院・在宅精神療法、心身医学療法)が計上されている例を除く	入院精神療法が算定されており、かつクロナゼパムの単剤使用例を除く
疼痛(1.頭痛、2.三叉神経痛、3.神経因性疼痛など)	1.抗てんかん薬を併用している頭痛はてんかんとみなす。2.カルバマゼピンあるいはクロナゼパムのみでの投与例で神経痛病名が付与されている例を除く。3.慢性疼痛疾患管理料あるいはがん性疼痛緩和指導管理料が計上されている例を除く。	1.抗てんかん薬を併用している頭痛はてんかんとみなす。2.カルバマゼピンあるいはクロナゼパムのみでの投与例で神経痛病名が付与されている例を除く。3.がん性疼痛緩和指導管理料が計上されている例を除く。
不随意運動症(片側顔面けいれん、チックなど)	カルバマゼピンあるいはクロナゼパムのみでの投与例で片側顔面けいれん、チックなどの病名が付与されている例を除く	カルバマゼピンあるいはクロナゼパムのみでの投与例で片側顔面けいれん、チックなどの病名が付与されている例を除く
パーキンソン病	抗てんかん薬としてはゾニサミドのみが処方されており、かつ抗パーキンソン病薬が併用されている(あるいは難病指導管理料が計上されている)例を除く	抗てんかん薬としてはゾニサミドのみが処方されており、かつ抗パーキンソン病薬が併用されている例を除く

非てんかんの除外法（2）

下記の疾患名（関連疾患名を含む）が併記されている例を抽出しそれぞれの群で下記の条件にあてはまる例を除外する

併記疾患名	外来（てんかん指導料算定例は除く）	入院
熱性けいれん、急性胃腸炎（非てんかん性けいれん発作）	てんかんと非てんかんの弁別は不可能	てんかんと非てんかんの弁別は不可能
頭部外傷、脳卒中、脳腫瘍、脳外科術後（予防投与）	てんかんと予防投与の弁別は不可能	てんかんと予防投与の弁別は不可能

3

その他

	外来	入院
てんかんの病名はあるが抗てんかん薬が処方されていない	Active epilepsyとはみなさず除外する	Active epilepsyとはみなさず除外する
てんかんの病名はないが抗てんかん薬が処方されている。1.病名を伏せて他の適応で処方した場合：気分障害など、2.病名漏れ。	1.てんかんの可能性はあるが弁別不能。2.平均的な病名漏れの確率で推定。	1.てんかんの可能性はあるが弁別不能。2.平均的な病名漏れの確率で推定。
「頭蓋、脳」の手術（K145-K181-3まで）を受けた者	—	抗てんかん薬の予防投与がされている可能性があるため他の診療情報ともあわせて除外か否か決定する。
脳卒中ケアユニット入院医療管理料、手術前医学管理料、手術後医学管理料、救急救命管理料	—	脳卒中などの急性期入院である場合があるため他の診療情報ともあわせて検討し除外する。
がん性疼痛緩和指導管理料	がん疼痛の治療の可能性が高いため除外。	がん疼痛の治療の可能性が高いため除外。
特定薬剤治療管理料、小児特定疾患カウンセリング料、小児科療養指導料	抽出されたもので、先が算定されているものはてんかんである可能性が高いため中核群とするかを他の診療情報ともあわせて検討する。	抽出されたもので、先が算定されているものはてんかんである可能性が高いため中核群とするかを他の診療情報ともあわせて検討する。

以上を原則として、保険傷病名をてんかん（中核群）とてんかん（周辺群を含む）に弁別するが、事例によっては診療行為に基づいて専門医が判定を行う。

4

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

分担研究年度終了報告書

てんかんの地域医療における保健行政的研究、国外調査及び提言

研究分担者	竹島 正 ((独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)
研究協力者	河野 稔明 ((独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)
	立森 久照 ((独)国立精 (医療法人卯の会 新垣病院)
	池田 学 (熊本大学大学院生命科学研究部脳機能病態学分野)
	中島 央 (熊本県精神保健福祉センター)
	仲本 晴男 (沖縄県総合精神保健福祉センター)
	野口 正行 (岡山県精神保健福祉センター)
	原田 豊 (鳥取県精神保健福祉センター)
	堀井 茂男 (財団法人慈圭会 慈圭病院)
	松浦 雅人 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科)

研究要旨

【目的】都道府県等におけるてんかん診療の実態と問題点を把握し、わが国のてんかん医療のニーズを満たすために必要な人的・物的医療資源を明らかにするための基礎資料とすることを目的とする。

【方法】各地におけるてんかん診療の課題を把握する目的で、P 県、Q 県、R 県、S 県の 4 県に訪問して探索的な聞き取り調査を行った。聞き取り調査および研究班での意見交換をもとに、都道府県等におけるてんかん診療の実態と問題点を把握し、わが国のてんかん医療のニーズを満たす基礎資料とするための質問紙調査票を作製した。

【結果および考察】聞き取り調査の結果、(1) てんかん診療の問題は行政課題として取り扱われてこなかったこと、(2) 精神科領域においててんかん診療を専門にする医師が減少するとともに若い精神科医はてんかん診療のトレーニングを十分に受けておらず鑑別診断の対象外になってしまっていること、(3) てんかんと一緒に症状性・器質性の精神疾患を一緒にして専門センター化するという方向が考えられることなどの意見が得られた。これらの意見を踏まえて、回答者の勤務先の所在する都道府県・指定都市におけるてんかん診療体制、回答者の直接診療に携わる診療科におけるてんかん診療の現状、回答者の勤務先の所在する都道府県・指定都市における、難治性患者の紹介・コンサルテーション体制、てんかん診療の教育研修の機会などからなる質問紙調査票（案）を作成した。

【結論】歴史的に中核となる診療科が不明確であったことに発するてんかん診療の問題点は多くの都道府県に存在しているであろうことが推察された。バランスのとれた精神保健医療福祉サービスの実現には、てんかん診療体制の確立は急務であり、症状性・器質性の精神疾患を一緒にして専門センター化することなど、実現可能性の高い、具体的な方向性を 24 年度に行う質問紙調査の結果などをもとに検討する必要がある。

A. 研究目的

わが国のてんかん診療は、歴史的に中核となる診療科が不明確であったこともあり、地域において、どのような患者がどのような診療科や医療機関で治療されているかという実態は明確にされておらず、そのことがてんかん診療の充実を阻む要因になってきた。本研究は、都道府県等におけるてんかん診療の実態と問題点を把握し、わが国のてんかん医療のニーズを満たすために必要な人的・物的医療資源を明らかにするための基礎資料とすることを目的とする。

B. 研究方法

(1) 各地におけるてんかん診療の課題を把握する目的で、P県、Q県、R県、S県の4県に訪問して探索的な聞き取り調査を行った。

P県は人口約194万人で、てんかん学会専門医一覧(2012.02.01)によると、県内の専門医は13人で、小児科10人、神経内科1名、精神科2名である。P県においては、精神保健福祉主管課、県立精神科医療センター、精神科病院3か所、てんかん協会支部の聞き取りを行った。

Q県は人口約140万人で、同専門医一覧によると、県内の専門医は小児科1人のみである。Q県においては、精神保健福祉センター、精神科病院各1か所の聞き取りを行った。

R県は人口181万人で、同専門医一覧によると、県内の専門医は精神科1人のみである。R県においては、精神保健福祉センターにおけるグループインタビュー(精神保健福祉センター、精神科病院、てんかん協会支部など)の中で聞き取りを行った。また大学病院精神神経科の聞き取りを行った。

S県は人口約59万人で、同専門医一覧によると、小児科1人、脳外科1人、精神科1人の3人である。R県においては、精神保健福祉主管課、精神保健福祉センターの同時聞き取りを行った。

聞き取り調査の結果は、てんかん診療の実状と課題、てんかん診療等のあり方についてまとめた。なお、全国に5か所設置されているてんかんセンター(てんかんの基幹病院)はこれら4県には設

置されておらず、てんかん診療に関しては、これら4県は比較的的平均的な実態を表しているものと考えられる。

(2) 本分担研究の目的を踏まえ、上記の聞き取り調査および研究班での意見交換をもとに、都道府県等におけるてんかん診療の実態と問題点を把握し、わが国のてんかん医療のニーズを満たす基礎資料とするための質問紙調査票を作製した(質問紙調査は、平成24年4月20日を回収締め切りとして、調査依頼中である)。

(倫理面への配慮)

本研究の使用したデータには個人情報含まれていない。

C. 研究結果

1. 聞き取り調査

1) P県

(1) 精神保健福祉主管課

①てんかん診療の実状と課題

- ・ てんかん診療の問題は行政課題として取り扱われてこなかった。
- ・ 地域保健の母子保健領域では、母親がてんかん患者の場合の服薬管理、家族の理解と育児支援などの課題が経験されてきた。

②てんかん診療等のあり方

- ・ なぜ行政が関わるのかということ、国に整理してもらえると、県としても動きやすくなる。

(2) 精神科医療センター

①てんかん診療の実状と課題

- ・ 精神科領域において、てんかん診療を専門にする医師は減少している。

②てんかん診療等のあり方

- ・ てんかん診療の拠点施設が必要である。
- ・ てんかんを含めて、症状性・器質性の精神疾患を一緒にして専門センター化することも考えられる。

(3) 精神科病院

①てんかん診療の実状と課題

- ・ 精神科病院を受診するてんかん患者は減少している。

- ・成人のてんかんは、伝統的には精神科医が診療を担ってきたが、神経内科の診療対象となりつつある。
- ・県北と県南では受診行動が異なり、県北の成人は、精神科病院の受診も多い。

②てんかん診療のあり方

- ・画像や脳波を用いた診断は神経内科が得意とするところであるが、精神症状、性格変化、患者の理解と生活支援については精神科の関与が必要である(高次脳機能障害や認知症にも共通)。
- ・神経内科と精神科の両科にわたる臨床のできる医師が、地域では必要とされているかもしれない。

(4) てんかん協会支部

①てんかん診療の実状と課題

- ・どの医師がてんかんの専門医なのかかわからないという問題がある。治療薬を処方することに終始する医師もあり、患者との信頼関係が築かれない場合がある。
- ・県南の小児患者は国立大学病院小児神経科が一手に引き受けており、患者は成人後も引き続き受診している。発作が十分にコントロールされている患者が多く、知的障害を合併したてんかん患者の入所する施設の職員でも発作を見た経験がない場合がある。
- ・国立大学病院小児神経科の専門医は、医療機関の横のつながり、医療と行政とのつながりの乏しさを指摘している。
- ・てんかん協会支部は、これまでほとんど行政とのつながりがなかった。
- ・仕事に就くことが難しい状態であっても、発作がコントロールされていると障害基礎年金の受給が難しい(医療機関で障害基礎年金の説明がなく、医療記録も廃棄されていた事例がある)。
- ・通常学校への入学や賃貸物件への入居を断られることがある。

②てんかん診療等のあり方

それぞれのライフステージに合わせた生活、暮ら

しのあり方を追求していくとすれば、多くのてんかん患者に支援が必要になる。てんかん診療の充実に加えて、てんかんについての正しい理解を広める啓発活動、てんかん患者の福祉充実を求める活動が必要である。

2) Q 県

(1) 精神保健福祉センター

①てんかん診療の実状と課題

- ・小児科、神経内科、脳外科、精神科で診療している。
- ・重度心身障害児(者)施設に知的障害を伴う難治性てんかんの患者が多くいる。
- ・②てんかん診療等のあり方
- ・難治性患者の紹介・コンサルテーションのできる体制が県内にあるとよい。

(2) 精神科病院

①てんかん診療の実状と課題

- ・小児科、神経内科、脳外科、精神科で診療しているが、全体の状況は把握されていない。
- ・現在の処方が適正なものかどうかかわからないまま同じ処方が継続されている患者は多いと思われる。

②てんかん診療等のあり方

- ・てんかん診療のコンサルテーションのできる場所があるとよい。

3) R 県

(1) 精神保健福祉センター

①てんかん診療の実状と課題

- ・若い精神科医はてんかん診療のトレーニングを十分に受けておらず、てんかんが鑑別診断の対象外になってしまっている。
- ・歴史的に、地域保健、地域精神保健の中で、てんかんのことを扱ったことはないか、きわめて希薄である。
- ・相談事例の中には、発達障害と診断されて、てんかんが見過ごされている場合がある。

②てんかん診療等のあり方

- ・精神科専門医制度などを通して、若い精神科医にてんかんをきちんと教える状況をつくっていく必要がある。

(2) 精神科病院

①てんかん診療の実状と課題

- ・ 精神科医領域のてんかん専門医が不足している(かつては静岡てんかん・神経医療センターに研修を受けに行っていたが、それが途切れている)。現在専門医として診療にあたっている精神科医も高齢化してきた。
- ・ 脳外科などでてんかん診療が行われているが、てんかん専門医はいない。

②てんかん診療等のあり方

- ・ 人材育成の観点からも「てんかんセンター」となる施設が望まれる。
- ・ てんかんという病名についても検討の必要がある。
- ・ 発作がコントロールされている場合、精神障害者保健福祉手帳の取得が難しい。

(3) てんかん協会支部

①てんかん診療の実状と課題

- ・ 不適切な治療のために、発作が十分コントロールされていないことがある。
- ・ 家族がてんかんを隠そうとしてきたのも問題だった。

②てんかん診療等のあり方

- ・ 医療機関とも大学とも連携がないため、電話相談に対応する際も心細い。行政を中心としたネットワークができるのを望んでいる。
- ・ クレーン車6 児童死亡事故は大きな問題であった。てんかんを正しく理解する啓発を、行政の力も得て進める必要がある。

(4) 大学精神神経科

①てんかん診療の実状と課題

- ・ 精神科におけるてんかん診療への関心が低下している(ルーチン検査として脳波検査を行うことがなくなった)。
- ・ 精神科医が静岡てんかん・神経医療センターに派遣されなくなってから、精神科のてんかん専門医が育成されなくなった。てんかんの治療では精神的対応の必要性は高く、てんかん専門の精神科医の不在で十分な治療を受けられない患者がいる(高次脳機能障害でも同様に、失

語、失行、記憶障害より精神症状、前頭葉症状の重症な患者が日常生活に困っており、専門の精神科医の存在は大きい)。

- ・ 大学病院精神神経科(50床)の入院患者には、常時1-2人は脳波異常、てんかん発作のある患者がいる。そこから脳炎や脳腫瘍が見つかることがある。

②てんかん診療等のあり方

- ・ 認知症疾患医療センターとして、基幹型センター1箇所と9箇所の地域に密着した地域拠点型センターを設置し、10箇所のセンターが一丸となって認知症医療に取り組むこととしている。このような体制が、てんかん診療、高次脳機能障害にも活用できるのではないか。

4) S 県

(1) 精神保健福祉主管課、精神保健福祉センター

①てんかん診療の実状と課題

- ・ てんかん診療を専門にしている精神科病院はない。
- ・ 脳神経小児科、脳神経内科、脳神経外科などがそれぞれに対応しており、どこかの機関に集約されているわけではない。

②てんかん診療等のあり方

- ・ てんかん診療も含めて、地域医療を担う精神科医の高齢化と減少が大きな問題である。

2. わが国のてんかん医療のニーズを満たす基礎資料とするための質問紙調査票

聞き取り調査および研究班内での検討を踏まえ、てんかん診療体制の整備に役立てるための質問紙調査の調査対象および調査項目(案)を整理した。

調査対象は、精神科領域では、精神医学講座担当者会議の会員、日本精神科病院協会に加盟する各都道府県の精神科病院協会の会長、日本精神神経科診療所協会に加盟する各都道府県の精神神経科診療所協会の会長、各都道府県の精神保健福祉センターの所長とした。精神科以外では、神経内科・脳外科・小児科の講座担当者などを対象とすべく調整している。

調査項目(案)は下記のとおりである。

(1) 回答者の主たる勤務先の都道府県・指定都市名、施設名

(2) 回答者の勤務先の所在する都道府県・指定都市におけるてんかん診療体制など

- ・ 行政からの、てんかん患者の診断・治療の専門機関と地域の医療機関の連携などについての情報提供の有無
- ・ てんかんの基礎知識を体系的に伝える教育課程や研修の機会の有無など
- ・ 難治性てんかんの診断や治療のコンサルテーションのできる専門機関の有無など

(3) 回答者の直接診療に携わる診療科におけるてんかん診療の現状

- ・ 外来で診療している患者数
- ・ 診療設備（脳波計、CT撮影装置、MRIの有無し）
- ・ 回答者の直接診療に携わる診療科のてんかん診療における役割

(4) 回答者の勤務先の所在する都道府県・指定都市における一般的な診療科、一般的な診療機関、およびご自身が診療・相談等を行った場合の対応（てんかん事例4つをもとに回答）

(5) 回答者の勤務先の所在する都道府県・指定都市における、難治性患者の紹介・コンサルテーション体制、てんかん診療の教育研修の機会、てんかんについての市民への普及啓発の充実の程度

(6) 回答者の勤務先の所在する都道府県・指定都市におけるてんかん診療体制の充実に関する取り組みの有無など

- ・ てんかん専門医や相談機関などの情報を管理し、一般向けに紹介する専門の機関・部署
- ・ 専門の医師・相談機関などが情報共有または協働を組織的に行うネットワークの設置または稼働
- ・ てんかん患者のケアに当たる専門家向けの研修
- ・ 地域の一般住民向けの普及啓発活動
- ・ 専門家養成
- ・ その他の特筆すべき取組

(7) 回答者の勤務先の所在する都道府県・指定都市におけるてんかん患者の地域ケアの状況（身体障害、知的障害、精神障害のために障害者福祉サービスを受けている一般の障害者と比較）

D. 考察

てんかんはICD-10では「神経系の疾患」に分類されるが、精神症状を伴う場合は、「精神および行動の障害」のF0（症状性を含む器質性精神障害）に分類される。また厚生労働省患者調査では、精神障害の推計入院患者数、推計通院患者数の中にカウントされ、制度的にも、精神障害者保健福祉手帳、障害者自立支援医療（精神通院医療）、障害者自立支援法による福祉サービスの適用対象となっている。その一方で、てんかんの障害特性のために、てんかん患者のかかえる生活のしづらさが適切に評価されにくいために制度利用への期待と実際に利用できる制度の間にギャップが生じているとの問題指摘がある。また、てんかんについての正しい知識と観察・介助法の普及を、組織的・計画的に取り組んでいくことを求める意見がある。また本研究の主題であるてんかん診療についても、てんかん医療ネットワークの充実、災害時の抗てんかん薬の供給システムの確立の必要性が指摘されている。

これらの問題指摘は、今回の聞き取り調査の結果とも重なるものであり、特にてんかん診療ネットワークについては、てんかん患者が診療に訪れる小児科、神経内閣、脳外科、精神科などにわたる診療ネットワークは、聞き取り調査を行った4県のいずれにも整っていないことが推察された。これらの4県は都道府県の中で特別な存在ではないと推測されることから、歴史的に中核となる診療科が不明確であったことに発するてんかん診療の問題点は多くの都道府県に存在しているであろうことが推察された。この意味で、平成23年度にまとめたてんかん医療のニーズを満たす基礎資料とするための質問紙調査の実施は重要な意味があると思われる。また、聞き取り調査において、①精神科のてんかん離れに対応する手をうつこと、

②てんかんを含めて、症状性・器質性の精神疾患を一緒にして専門センター化すること、の重要性を指摘する意見があったが、人材育成と将来のてんかん診療ネットワークの構築に向けて貴重な意見と思われた。

さて研究分担者は、平成9年6月から現在の国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所において政策研究に従事しているが、これまで、てんかん診療体制についての研究を求められたことはなかったし、自発的に研究に取り組んだこともなかった。今回、聞き取り調査を行う中で、これまでてんかん診療に関する政策研究に取り組まなかったことの不明を恥じる。精神保健医療福祉の改革は、ニーズに対してバランスのとれた改革であることが望まれる。歴史的に中核となる診療科が不明確であったことは政策推進のデメリットであったが、てんかん患者のように複雑なニーズをかかえる対象に適切に対応できるような政策を提案していくことは、社会に益するところ大きい。24年度には質問紙調査の分析をもとに、実現可能性が高く、てんかん患者にも利益の大きいてんかん診療体制を築くために必要な取り組みと、診療体制を明らかにする。

E. 結論

都道府県等におけるてんかん診療の実態と問題点を把握し、わが国のてんかん医療のニーズを満たすために必要な人的・物的医療資源を明らかにするため、探索的な聞き取り調査と質問紙調査（案）の開発を行った。歴史的に中核となる診療科が不明確であったことに発するてんかん診療の問題点は多くの都道府県に存在しているであろうことが推察され、バランスのとれた精神保健医療福祉サービスの実現には、①精神科のてんかん離れに対応する手をうつこと、②てんかんを含めて、症状性・器質性の精神疾患を一緒にして専門センター化することなど、実現可能性の高い、具体的な方向性があることが推察され、24年度の質問紙調査の解析が期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

てんかん診療の状況調査

A. 回答者についてお聞きします。

1. 主たる勤務先(以下、貴施設)のある都道府県・指定都市名をお書きください。

2. 貴施設の名称をお書きください。

B. 貴施設の所在する都道府県・指定都市における、てんかん診療について、ご存知の範囲でお答えください(貴施設の所在する自治体の人口規模がきわめて大きい場合は、貴施設の所在する人口 50～100 万くらいの圏域を念頭に置いてご回答ください)。

1. この2～3年間のうちで、貴施設の所在する都道府県・指定都市の行政から、てんかん患者の診断・治療の専門機関と地域の医療機関の連携等、てんかんの地域医療体制についての情報提供はありましたか。(一つ選んで○)

1 あった 2 なかった

↳具体的に()

2. この2～3年間のうちで、貴施設の所在する都道府県・指定都市において、てんかんの基礎知識を体系的に伝える教育課程や研修の機会がありましたか。(一つ選んで○)

1 あった 2 なかった

↳具体的に()

3. 貴都道府県・指定都市には、難治性てんかんの診断や治療のコンサルテーションのできる専門機関はありますか。ここで難治性てんかんとは、てんかんと診断され、主要な抗てんかん薬を最大投与量まで使用しているにもかかわらず、発作抑制ができず、患者のQOLへの影響が大きいものとします。

1) 小児の難治性てんかん(一つ選んで○)

1 ある 2 ない 3 わからない

↳具体的に()

2) 成人の難治性てんかん(一つ選んで○)

1 ある 2 ない 3 わからない

↳具体的に()

C. 貴施設・貴診療科におけるてんかん診療の現状についてお答えください。ここで貴施設・貴診療科とは、貴施設の中で、回答者が直接診療・相談に携わる診療科を言います。

1. 外来で診療している患者数(主たる傷病がてんかんであるもの)をお答えください。(一つ選んで○)

- 1 てんかんの患者はいない、またはほとんどいない
2 1日あたり10人未満である 3 1日あたり10人以上である

2. 貴施設の診療設備についてお聞きします。(該当すべてに○)

- 1 脳波計 2 CT撮影装置 3 MRI

3. 貴施設の所在する都道府県・指定都市における、貴地域・貴診療科のてんかん診療における役割をお答えください。

1) 発作のコントロールに関してどのような役割を担っていますか。(一つ選んで○)

- 1 発作抑制例の通院治療に対応している 2 難治例の通院治療に対応している
3 難治例の入院治療に対応している 4 いずれも対応していない

2) 精神症状を合併している患者にはどのように対応していますか。(該当すべてに○)

- 1 外来診療において向精神薬の調節を行っている
2 入院治療において向精神薬の調節を行っている
3 相談に応じ、医療機関・相談機関の紹介を行っている
4 いずれも対応していない

D. これからてんかんの症例をいくつかあげます。これらの事例について、貴施設の所在する都道府県・指定都市における一般的な診療科、一般的な診療機関、およびご自身が診療・相談等を行った場合の対応について、それぞれお答えください(貴施設の所在する自治体の人口規模がきわめて大きい場合は、貴施設の所在する人口50～100万くらいの圏域を念頭に置いてご回答ください)。